

発行者：

東京大学大学院都市工学専攻
環境デザイン研究室
〒113-8656 東京都文京区
本郷7-3-1 工学部8号館7F

協力：RISTEX

社会技術研究開発センター

まちづくりは次のステップへ ～整備方針の報告と提出～

第15回「玉浦西地区まちづくり検討委員会」が2013年2月6日に岩沼市役所にて開催されました。今回のまちづくり検討委員会では、これまでの14回にわたる委員会の中で決定された「画地の配置及び公共・公益施設整備方針」について、阿留多岐委員長より報告がおこなわれ、報告書が井口市長に提出されました。

計画の特徴は、まち全体に地域の伝統を継承する居久根（イグネ）を創り出すこととし、中央には住民のみなさんが使いやすいように公園と緑道が連続して配置されました。公園は西公園、中公園、東公園、そして東端の調整池公園（仮称）の四カ所が設けられ、それぞれが貞山堀の線形を踏襲した緑道によって一筋に結びつけられています。

西公園は古くから玉浦地区の景色の一つとなってきた居久根によって囲まれており、健康遊具やハーブ園といった活動の中で健康増進がすすめられいきます。中公園は防災公園としての役割をもち、広い集会所には緊急時の備蓄機能をもたせています。また普段からも避難訓練の後のお花見や盆踊りといった住民の交流のスペースとして利用されます。東公園は子ども達が全身をつかって遊べるように起伏に富んだ公園となっており、多様な遊具も設置されています。また、保護者のみなさんもベンチに腰掛けながら、安心して子ども達の遊ぶ姿を眺めることができます。公園兼調整池は降水量にあわせて三段階の高さとし、住民のみなさんの安全に配慮した構造になっています。手前に設けた高さ3mの丘は緊急時の逃げ場として、また普段は住民の交流のステージとして、そして玉浦の復興のシンボルとしての三つの意味が込められています。これらをつなぐ緑道や、広い道路に整備する並木、そしてそれぞれの公園の植栽は四季を感じられる樹木を配し、要所に植えられたシンボルツリーには集落の記憶が継承されています。

今後はまちづくり全体の検討から、個々の住宅づくりのルールなどより詳細な議論へと移っていきます。来年の春には美しく安全なまちで新たなスタートが切れるよう、住民のみなさん、事務局と力をあわせて議論を進めていきます。



写真：市長への報告書の提出



写真：報告を聞く市民のみなさん



写真：市の方々と研究室メンバーで記念撮影



写真：公園・緑地計画の全体図面